

はじめに

昨年7月、PM2.5（微小粒子状物質）の濃度上昇により札幌市で初めての注意喚起が行われました。原因は、ロシアシベリア地域での大規模な森林火災とみられ、成分分析でもバイオマスの燃焼成分であるレボグルコサンが検出され、これが裏付けられました。8月には日本国内でのデング熱の感染が約70年ぶりに確認され、感染者の訪問歴のある公園において採集された蚊からデングウイルスが発見されました。

国外に目を向けると、西アフリカ諸国におけるエボラ出血熱の流行があり、本年度に入ってから韓国において中東呼吸器症候群（MERS）の感染が拡大して日本国内への伝搬が危惧されました。

多くの人やモノが国境を越えて往来する現代において、このような環境汚染や感染症の他、食品への異物混入など、市民のくらしや健康に対する脅威が、国内での発生のみならず国外から伝搬する形でも毎年のように発生しています。

当所では、感染症のまん延を防止し、食品や大気・水質環境の安全を確保して健康被害を最小限に抑えるために試験検査・調査研究を実施しておりますが、健康危機発生時には、迅速に原因を特定して必要な措置を講じることが重要であり、衛生研究所には、これを科学的・技術的側面から支えなければならない使命があります。

そのためには、関係機関の皆様との連携、健康危機に関する情報の把握、検査技術の研鑽・継承、機器を含めた検査体制の整備などを平常時から備えて行く必要があります。

市民の生命と健康を守る責務を担っていることを肝に銘じ、検査の能力や信頼性をさらに高めていけるように日々取り組んでまいりますので、皆様におかれましては、本年報をご覧のうえ、お気づきの点があればご指導のほどよろしくお願いいたします。

平成27年（2015年）8月

札幌市衛生研究所長 木田 潔